

令和5年度の取り組み

(1) 研究概要（研究主題）

研究主題：主体的・対話的で深い学びを通し、「生きる力」を身に付ける生徒の育成

[具体的な取り組み]

- ① 「話し合い活動を中心とした学習過程」及び「ルーブリック評価」・「ICT」を活かした各教科による授業実践
- ② ルーブリック評価の活用 → 1学期に1回の実戦を目標でやりましょう。
- ③ 「土呂中学校・指導案の型」を活かした「領域」の授業実践。→ [9月計画訪問（領域）]
- ④ 「ユニバーサルデザイン」の継続（新たな取り組み）
- ⑤ 総合的な学習の時間における、「ルーブリック評価の活用」「概念を形成し、探究的な学習の良さを感じることのできる課題設定」。

(2) 主題設定の理由

本校の生徒は、平成28・29・30年度の学習状況調査の結果から以下のような実態が見える。

- ① 自尊意識・規範意識・基本的生活習慣の値が高い。
- ② 学習塾に通う生徒の割合は約8割。
- ③ [自分で計画を立てて勉強すること・学習時間・家での予習・復習]に課題がある。
- ④ 発表や話し合い活動に課題がある。



生活習慣や規範意識がしっかりとされていて授業に臨む態度がとても良く、全国学力学習状況調査の結果もさいたま市の平均値を上回っている。しかし、自分で計画を立てて学習するなどといった「自ら考えて学習をすることに課題」が見られた。また、話し合い活動などの「自分の考えを相手に話して伝える活動に苦手意識」をもつ生徒も少なくなかった。

上記の実態から、研究主題を「主体的・対話的で深い学びを通し、確かな学力を身に付ける生徒の育成」と設定し、「話し合い活動」を位置づけることとした。ICTを活用しながら、本校の生徒の実態に沿って「主体的・対話的で深い学び」を実現することで、更に「確かな学力」を身につけることができるのではないかと仮説を立てた。

仮説に「よい授業アンケート」の「因子③授業スキル」「因子④児童生徒の活動」「アクティブ・ラーニング自己評価シート」「家庭学習力アンケート」では、全体の数値が上昇した。「生活や授業に関するアンケート」では「家で、学校の授業の予習（復習）をしている」「友達の前で自分の考えや意見を発表するのは得意ですか」という質問に肯定的な回答の割合が大きく上昇した。

これらのアンケート結果から、生徒が主体的に学習に取り組むようになり、話し合い活動や発表などの苦手意識も改善があったことがわかる。主体的・対話的で深い学びを通して生徒が課題を克服し、さらに

「確かな学力」の向上を図ることができたと考えることが成果だと考える。

今年度は昨年度の研究を継続する。主体的・対話的で深い学びを更に効果的にするために「ルーブリック評価の活用」「ICTの活用」の研究を更に深化させていく。また、新学習指導要領の内容に沿って、各教科での研究をもとにして教科横断的に「話し合い活動」や「発表活動」の工夫をし、SDGsなどの今日的な課題を主題として研究に取り組んでいきたい。

(3) まとめ

主体的・対話的で深い学びを生かした総合的な学習を中心に研究を推進することができた。生徒のアンケート結果からも1回目より2回目の数値が上昇した。特に「目標の提示」「振り返り活動」「ICTの活用」「アクティブラーニング」「家庭学習」の数値の上昇が著しい。過去の数値と比べても近年は高い水準を維持している。各項目についても指導に生かしていきたい。

本校の生徒が克服した課題に関する力を更に伸ばし、得意へと変えて更に「確かな学力」「生きる力」を育むことができるよう研修に努める。